

学校だより

地域を守り、よさを味わう
藤橋小・中学校

本校は全校児童8名、生徒9名合わせて17名の小中併設校の小規模校です。この実態を生かし、小中一貫教育や地域のよさを味わう活動を取り入れながら、実践を積み重ねています。

委員会活動や運動会・学習発表会・スキー教室などの学校行事、総合的な学習の時間に行っている神楽などは小学校と中学校が合同で行っています。

藤橋地区に伝わる文化の一つである「神楽」は、4月から9月までの毎週1時間、地域の方を指導者に招いて練習し、9月に行われる地域の祭礼で披露しています。この神楽は過去に途絶えそうになったときもありましたが、子どもたちが継承し、十数年が経ちました。練習では中学生が小学生に教え、伝統を継承する場として大切にしています。そして中学校では道徳の時間に神楽の指導者の方を招き、神楽の由来や途絶えそうになってからの神楽を伝承してきた今日までの苦勞について語っていただきました。講師の方には話を聞いていただいた後は生徒たちの意欲が高まり、練習にも力が入るようになりました。



運動会や学習発表会は地域と連携し

て行っています。例えば学習発表会は藤橋地区文化祭の中に組み入れられ、午前は学習発表会、午後は地域の発表となつています。午前の学習発表会では、小学校は全校で劇を発表しました。



人数が少ないので一人が何役もこなさなければなりません。台詞を覚えるのも大変でした。しかし、堂々と発表していました。

中学校は今年度、1年と2年の合同学級と3年生の単独学級に分かれての発表です。1・2年生は4人で国語の教材「古文朗読 竹取物語」を取り上げ、全文暗唱しての朗読をして、パワーポイントを効果的に使って手書き挿絵をスクリーンに映写しました。3年生は「創作劇 藤橋物語」に挑戦し、脚本・配役・演出・音楽・照明・大道具・小道具作りまで、できることは自分たち自身でやり遂げました。藤橋の地名にまつわる歴史と人々とのかわりが生き生きと演じられました。

小学生は、小学生らしく明るくユーモラスに演じられて楽しめました。

中学生は中学生らしく学習内容を発表に結び付けて、学習の成果を工夫を凝らして、重厚感のある舞台発表ができていました。

午後の部では子どもたちは「藤橋権現太鼓」を披露しましたが、今年度は身近な割り箸を菱形に組んで接着した

後、和紙に子どもたちが自分で絵を描いたり文字を書いたりして、飾り色紙で化粧張りして、趣のある壁飾りを「ワークショップ」で製作しました。どの作品も個性的で魅力あるものになりました。お世話になった地域指導者の方々に紙面をお借りして心よりお礼申し上げます。



さて、今年度の小学校での大きな特徴として藤橋保育園との交流があります。春から1年間計画的に交流会が組まれました。この計画を実行

に移すには当日の時間割を事前に調整しなければならぬ苦勞があります。中学校の先生が小学校の教科担任として授業を受け持つからです。総合的な学習の時間や生活科の時間を活用しました。保育園の子どもを招いて学校のミニ農園である畑で作物づくりとして、種まきや苗植えを一緒に作業しました。保育園に出かけて、「焼き芋パーティー」に参加させてもらいました。そのほか、お楽しみ会などでゲームをしたり、小さい子のお世話をしたりしました。いろいろな体験活動を通して集団遊びのルールを学び、集団をまとめるリーダー



の役割を果たせました。



藤橋中学校の活動として、力を入れている福祉体験学習があります。今年度は「地域ふれあい活動」を年

1回から2回に増やし、地域の高齢者の方々の絆を一層深めることにしました。

1回目は、グラウンドゴルフを開催してチームごとに分かれてスコアを競い合いました。手作りの冷たいデザートを用意して歓談の時間を設けました。2回目は、室内軽スポーツとしてはまだ十分には知られていないシャフルボードゲームを体験してもらいました。

藤橋ルールでゲームそのものを存分に楽しんでもらえました。昔の遊び体験コーナーでは、お手玉・メンコ・こま廻しを取り上げところ、驚くべき名人芸の数々を披露していただきました。

こうして、地域との結びつきを大切にしながら、山間へき地複式小中併設小規模校の持つよさを最大限に発揮できるように教育活動を展開してきました。ところで、既にご存知の通り、本校は開校以来25年の歴史に幕を降ろすことになりました。最後になりましたが、これまで本校を支えていただきました全ての関係者の皆様方に対し、心よりお礼申し上げます。